

# 令和6年度 大阪府教育センター 研究フォーラム 実施要項

テーマ

## 大阪の子どもたちのウェルビーイングの向上 ～教育からのアプローチ～

### 1 日時 令和6年12月25日（水）

午前の分科会	午後の分科会
9:30～12:30（受付9:00～）	14:00～17:00（受付13:30～）

### 2 会場 大阪府教育センター

（大阪市住吉区苅田4丁目13番23号 電話 06-6692-1882）

Osaka Metro 御堂筋線「あびこ」駅下車、東北東へ約700m  
JR 阪和線「我孫子町」駅下車、東へ約1,400m  
近鉄南大阪線「矢田」駅下車、西南西へ約1,700m

### 3 目的

調査・研究から得た知見等を、教職員・府民等に発信することで、府内の学校教育活動の発展に資する。

### 4 申込み

- 参加するには御所属に応じて、下記の申込み手続きが必要となります。
  - 大阪府の公立学校の教職員：全国教員研修プラットフォーム（Plant）により申込み  
※ただし、大阪府の公立学校の教職員であるが Plant 上にアカウントがない方は、Google フォームにより申込み
  - 上記以外の方：Google フォームにより申込み申込みは、次の Web サイトから行ってください。  
[https://www.osaka-c.ed.jp/category/information/forum/forum\\_overview.html](https://www.osaka-c.ed.jp/category/information/forum/forum_overview.html)
- 午前と午後の分科会の両方を希望する方は、午前の分科会、午後の分科会をそれぞれ申込みください。
- 申込み期間は、**令和6年10月25日（金）～12月4日（水）**です。
- 各分科会とも定員に達した場合、抽選になります。申込みをされた方には、申込み締め切り1週間後をめぐりに、下記の方法により参加の可否をお知らせしますので、御確認ください。
  - Plant で申込みをされた方：Plant により通知
  - Google フォームで申込みをされた方：電子メールにより通知

### 5 参加に係る配慮事項

- 配慮を希望する方は、「受講に係る配慮事項申請書」に必要事項を入力の上、電子メールにて送付をお願いします。教職員の方は、管理職を通じて送付ください。
- 「受講に係る配慮事項申請書」は、次よりダウンロードできます。  
[https://www.osaka-c.ed.jp/category/information/forum/forum\\_overview.html](https://www.osaka-c.ed.jp/category/information/forum/forum_overview.html)  
ファイル名：R6\_研究フォーラム\_第〇分科会配慮事項申請書.docx  
送付先アドレス：[kyoiku-center-kousui@gbox.pref.osaka.lg.jp](mailto:kyoiku-center-kousui@gbox.pref.osaka.lg.jp)

## 6 分科会一覧（敬称略）

第1分科会	定員 60名	12月25日(水) 14:00~17:00
<b>これからの教職員の学び場 ～研修環境のデザインを考える～</b>		
<p>教師の学びに向かう主体的な姿勢をどのように育成するか、「学び続ける教師」の育成を目的とした研修とはどのようなものかをテーマに、今後の教職員の学び場について参加者の皆さまとともに考えていく分科会です。教育工学を御専門とされる東京理科大学 渡辺 雄貴 教授より、「研修（授業）の設計方法（インストラクショナルデザイン）」「自己調整学習理論」について、御講演いただいた後、大阪府教育センターでの調査研究の取組み報告をふまえ、協議を行います。</p>		
<ul style="list-style-type: none"><li>●講 演    これからの研修環境デザイン             渡辺 雄貴（東京理科大学 教授）</li><li>●報 告    全国教員研修プラットフォーム（Plant）の活用報告</li><li>●協 議    自校における学び場のデザイン</li></ul>		

第2分科会	定員 170名	12月25日(水) 9:30~12:30
<b>首席が活躍する学校づくり ～学校組織のさらなる活性化に向けて～</b>		
<p>各学校の抱える今日的な課題の解決や学校教育目標の達成に向けては、校務の要である首席の役割が重要です。</p> <p>本分科会では、首席の役割等について、府立学校の校長・准校長及び首席の先生方に実施したアンケートの分析結果や実践発表を通じて、首席が学校組織の中で十分に力を発揮するための方策について、みなさんと一緒に考えていきたいと思ひます。</p>		
<ul style="list-style-type: none"><li>●実践発表    府立高等学校                   府立支援学校</li><li>●協 議    学校組織のさらなる活性化に向けた首席の在り方</li></ul> <p>&lt;講 評&gt; 和田 良彦（四天王寺大学 副学長）</p>		

第3分科会	定員 110 名	12月25日(水) 14:00~17:00
-------	----------	-----------------------

## 人権教育にかかる効果的な教職員研修の在り方 ～人権課題を自分事として捉えるために～

各学校園において人権教育を進める際には、まずは教職員自身が人権教育や個別の人権課題を深く理解し、自分事として捉えることが必要になります。そのためには、どのような教職員研修が効果的なのでしょうか？ 本分科会では、講師の沖本様より、教職員研修を実施する上で大切にしたいポイントを提示していただきながら、参加者の皆さんと一緒に考えていきます。また、今年度、大阪府教育センターが作成する研修パッケージの試作版を体験し、改善に向けたアイデアを共有する時間も設けます。

主な対象は、管理職、人権教育担当者、指導主事等を想定しておりますが、人権教育に関心のある方であれば、どなたでも是非御参加ください。

- 報 告 調査・研究の中間報告
- 講 演 子ども主体の学校づくりー安心から行動へー  
沖本 和子（大阪多様性教育ネットワーク 共同代表）

第4分科会	定員 450 名	12月25日(水) 9:30~12:30
-------	----------	----------------------

## “困った子ども”ではなく、“困っている子ども”への気付き ～行動の要因から考える見立て・アセスメント～

教室にいる子どもたちの中に、「うまく伝わらない」「どう支援したらよいのかな」などと感じる子どもはいませんか？

支援教育のニーズのありなしに関わらず、指導が難しいと感じる“困った子ども”は、もしかしたら“困っている子ども”かも知れません。

子どもが“困っている”要因は何であるのかを明らかにするための調査・研究に関する経過報告の後、大阪大谷大学 小田 浩伸 教授より、適切な見立て・アセスメントの方法とその重要性について御講演いただきます。

- 報 告 通常の学級に在籍する支援が必要な子どもの指導・支援に係る調査・研究ーガイドブック作成に向けてー
- 講 演 子どもの見立て・アセスメントの重要性  
ー効果的な指導・支援につなげるためにー  
小田 浩伸（大阪大谷大学 教授）

第5分科会	定員 170 名	12月25日(水) 14:00~17:00
-------	----------	-----------------------

## 小中学校における不登校支援の在り方 ～学校だからこそできる「学び」と 多様な居場所だからこそできる「学び」を探る～

不登校が低年齢化している傾向や、一旦不登校になると次の学年でも継続する傾向から、今後、不登校になる子どもはますます増加する可能性があります。そこで、今学校に求められる、魅力ある学校に向けた発達支持的生徒指導の実践発表及び、多様な居場所での個々に応じた支援として ICT を活用した取り組みや、フリースクール等と学校との連携に関する実践発表を行います。また、これらの取り組みを子どもに合った支援とするために不可欠なアセスメントの方法として、いつでもどこでも短時間でアセスメントを深める機会の持ち方等について講演いただき、明日からの実践のヒントとなる取り組みをお伝えします。

●実践発表

学校だからこそできる「学び」：小学校、中学校

多様な居場所だからこそできる「学び」：市町村教育支援センター、フリースクール

●講演

不登校児童生徒へのアセスメントに基づいたチーム支援の在り方

野田 正人（立命館大学 教授、大阪府教育委員会 SSWSV）

第6分科会	定員 110 名	12月25日(水) 9:30~12:30
-------	----------	----------------------

## 高等学校における不登校生徒支援の可能性 ～支援の現場から見えてきたこと～

令和4年度に改訂された「生徒指導提要」では、不登校支援の目標は「児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的自立を目指せるように支援を行うこと」と記されています。不登校は、多様な要因・背景により結果として不登校になっているということであり、個に応じた多様な社会的自立に向けて目標の幅を広げた支援を行うことが必要になります。本分科会では、大阪府高等学校教育支援センターと連携して生徒を支援した高等学校の取り組みを紹介するとともに、不登校生徒支援の可能性について、大学教授に御講演いただきます。

●報告 調査・研究の中間報告

●実践発表 大阪府高等学校教育支援センターと連携した生徒支援

池田 径（大阪府教育センター附属高等学校 指導教諭）

山下 尚亮（府立八尾北高等学校 校長）

山口 勝久（府立八尾北高等学校 教頭）

●講演 不登校生徒支援の可能性

齊藤 誠一（大阪信愛学院大学 教授）

第7分科会	定員 230 名	12月25日(水) 9:30~12:30
-------	----------	----------------------

## 学校の特色をいかした魅力ある学力向上の取組み

大阪府内すべての子どもたちの学力を向上させることを目的として実施しているスクール・エンパワーメント推進事業の4つの事業実施校より、学力課題に正対した取組み事例について実践発表いただくとともに、発表を通じて感じたことや学んだことをリアルタイムで共有する「クラウドを活用した全員参加型の交流」により学びを深めます。さらに、子どもたちの学力向上にむけた授業改善や研究推進の在り方等について、大阪教育大学 四辻 伸吾 特任准教授に御講演いただきます。

- 実践発表
  - ①【確かな学びをはぐくむ学校づくり推進校】太子町立山田小学校
  - ②【学校図書館を充実・活用するためのモデル校】大東市立深野中学校
  - ③【国語の授業づくりモデル小学校】茨木市立三島小学校
  - ④【スマートスクール実現モデル校】東大阪市立布施中学校
  
- 協 議 学力向上にむけた授業改善や研究推進について
  
- 講 演 子どもの成長ファーストで考える学力向上  
四辻 伸吾（大阪教育大学 特任准教授）

※第7分科会は、3つの研修室に分かれて実施します。  
 3つの研修室を中継でつなぐため、どの研修室においても4つの実践発表と講演をすべて御覧いただけますが、一部はWebを介して御覧いただくことになります。  
 【第1室】では実践発表①及び講演を、【第2室】では実践発表②③を、【第3室】では実践発表④を、Webを介さず直接御覧いただけます。  
 当日、希望の研修室をお伺いしますが、研修室の定員により異なる研修室へ御案内する場合がありますことを御了承ください。

第8分科会	定員 270 名	12月25日(水) 14:00~17:00
-------	----------	-----------------------

## 未来を創る力の育成 ～「わかった!」「できた!」を実感できる学びを求めて～

子どもたちが未来社会を創り、よりよく生きるために、各学校では、学習指導要領の趣旨を実現し、資質・能力の育成をめざした授業づくりが求められています。そこで、「資質・能力の育成のためにどのような学習課題・学習活動が求められているのか」「資質・能力の育成が、子どもたちの未来社会にどのようにつながっているのか」について改めて考えます。資質・能力の育成の意義について理解を深め、「わかった!」「できた!」を実感できる子どもの学び、そして先生の学びについて、一緒に考えましょう。

- 実践発表（ポスターセッション）※15分のセッションを3回行います。9つの実践発表から3つを選択し、参加していただけます。  

大東市立南郷小学校 中島 千夏 教諭 (小学校国語科)	枚方市立枚方小学校 川口 文香 教諭 (小学校算数科)
大東市立大東中学校 野村 太郎 教諭 (中学校数学科)	高槻市立阿武山中学校 井上 知治 教諭 (中学校理科)
東大阪市立小阪中学校 西村 良介 教諭 (中学校理科)	摂津市立第四中学校 前川 直輝 教諭 (中学校外国語科)
摂津市立鳥飼小学校 山崎 有加 指導教諭 (小学校校内研究)	吹田市立第六中学校 速水 祐美子 指導教諭 (中学校校内研究)
八尾市立高安小中学校 劉 崇治 教諭 (外国語授業づくり研修)	
  
- 講 演 資質・能力の育成とウェルビーイングとのつながりについて  
西村 圭一（東京学芸大学 教職大学院 教授）

第9分科会	定員 110 名	12月25日(水) 14:00~17:00
-------	----------	-----------------------

## 高校の授業をどう「探究」にしていくか？ ～未来を切り拓く力の育成をめざして～

予測困難といわれる未来社会を切り拓く力を育成するためには、生徒が自身の疑問の解決に向けて試行錯誤できるような探究的な学びの要素を、日々の授業に取り入れていくことが大切です。本分科会では探究的な学びの実現に向け、「生徒が思わず没頭してしまう」課題とはどのようなものか、それをどのように生徒に投げかければよいのかを体験しながら、参加者の方々とともに考えます。また、国立教育政策研究所 小林 廉 教育課程調査官より、「生徒の学びを『探究的な学び』にするためのてだて」について御講演いただきます。

- ワークショップ 生徒を没頭させる「問い」
- 講演 自立した学習者を育成する「探究的な学び」のデザイン  
小林 廉（国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官  
（併）文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官）

第10分科会	定員 140 名	12月25日(水) 9:30~12:30
--------	----------	----------------------

## 府立高等学校におけるICTを活用した授業について① ～リーディング GIGA ハイスクール事業～

リーディング GIGA ハイスクール事業では、府立高等学校 30 校を「リーディング GIGA ハイスクール」に指定し、生徒 1 人 1 台端末や電子黒板機能付きプロジェクタをはじめとする ICT の効果的な利活用に向けた取組みを進めています。その成果の普及を目的として、リーディング GIGA ハイスクールによる授業実践発表を行います。

（第 10 分科会を午前の部、第 11 分科会を午後の部として、すべてのモデル校が実践発表します。）

- 実践発表  
茨木西高校・園芸高校・春日丘高校(全日制)・岸和田高校・金剛高校  
堺西高校・桜塚高校(全日制)・狭山高校・吹田東高校・住吉商業高校  
泉陽高校・千里高校・農芸高校・阪南高校・みどり清朋高校・山田高校  
(50 音順)
- ※第 10 分科会は 2 つの研修室に分かれて実施します。2 つの研修室間の移動は可能です。

第 11 分科会

定員 140 名

12 月 25 日(水) 14:00~17:00

府立高等学校における ICT を活用した授業について②  
～リーディング GIGA ハイスクール事業～

リーディング GIGA ハイスクール事業では、府立高等学校 30 校を「リーディング GIGA ハイスクール」に指定し、生徒 1 人 1 台端末や電子黒板機能付きプロジェクタをはじめとする ICT の効果的な利活用に向けた取組みを進めています。その成果の普及を目的として、リーディング GIGA ハイスクールによる授業実践発表を行います。

(第 10 分科会を午前の部、第 11 分科会を午後の部として、すべてのモデル校が実践発表します。)

●実践発表

いちりつ高校・大冠高校・工芸高校(全日制)・高津高校・香里丘高校  
清水谷高校・豊中高校能勢分校・長尾高校・花園高校・東淀工業高校  
枚方高校・藤井寺工科高校(全日制・定時制)・都島工業高校(全日制)  
夕陽丘高校

(50 音順)

※第 11 分科会は 2 つの研修室に分かれて実施します。2 つの研修室間の移動は可能です。